

## 九州体育・スポーツ学会第72回大会要項（第二報・修正版）

1. 名称：九州体育・スポーツ学会 第72回大会
2. 主催：九州体育・スポーツ学会
3. 主管：大分県立芸術文化短期大学
4. 後援：大分県教育委員会、公益財団法人大分県スポーツ協会（申請予定）
5. 期日：2023年9月9日（土）～10日（日）
6. 会場：J:COM ホルトホール大分 〒870-0839 大分県大分市金池南 1-5-1
7. 日程：

9月4日（月）		
13:00～15:00	総務委員会（オンライン）	
9月8日（金）		
13:00～14:30 15:00～ ～16:30	理事会 新旧理事会 新理事会（新旧理事会終了後開始）	14:00～17:00 事前受付  (ホルトホール大分2階)
9月9日（土）（1日目）		
9:30～ 9:55～10:00 10:00～12:00 12:00～13:00 13:00～14:00 14:10～15:10 15:20～17:20 17:30～18:30 19:00～21:00	受付 開会式 一般研究発表（口頭発表） 「昼休み・会議」（若手優秀発表賞選考関連会議） 「九州地区大学体育連合」・「九州体育・スポーツ学会」合同企画 特別講演 全体シンポジウム 総会 全体情報交換会	
9月10日（日）（2日目）		
9:15～ 9:30～10:30 10:40～12:40 12:50～13:50 12:50～14:20 14:00～16:00 16:00～16:10 16:10 16:20～	受付 研究推進委員会企画セッション，自主企画セッション1・2 専門分科会シンポジウム（総会含む） スチューデント・セッション 自主企画セッション3 一般研究発表（口頭発表・ポスター発表） 閉会式・表彰式 学会大会終了 九州地区大学体育連合理事会	

上記は対面方式での開催を前提としていますが、開催方式が変更になった場合も同様のタイムテーブルでの進行を予定しています。

## 8. お問い合わせ

学会 Web ページ <http://webpages.ihs.kyushu-u.ac.jp/ktsm/>  
第 72 回大会 Web ページ <https://sites.google.com/view/kspes72nd/home>  
第 72 回大会専用 E-mail 72nd.kspes@gmail.com  
九州体育・スポーツ学会第 72 回大会実行委員会  
〒870-0833 大分県大分市上野丘東 1-11  
大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科 洲 雅明  
連絡先 097-545-0542 (内線 673)

## 9. 第 72 回大会組織

- ・ 大会会長 小手川 大助 (大分県立芸術文化短期大学学長)
- ・ 大会実行委員長 洲 雅明 (大分県立芸術文化短期大学)
- ・ 大会実行副委員長 岡内 優明 (大分大学)
  - (1) 庶務 大塚 道太、小池 貴行 (大分大学)、稲垣 敦 (大分県立看護科学大学)
  - (2) 渉外 大庭 恵一 (大分工業高等専門学校)、稲垣 敦 (大分県立看護科学大学)
  - (3) 会計 岡内 優明、小池 貴行 (大分大学)
  - (4) 研究 谷口 勇一、玉江 和義 (大分大学)
  - (5) 会場 大庭 恵一 (大分工業高等専門学校)、陶山 俊介 (別府溝部学園短期大学)  
谷口 勇一、玉江 和義、大塚 道太 (大分大学)
- ・ 大会役員 斉藤 篤司 (九州大学) 高瀬 幸一 (名桜大学)  
檜垣 靖樹 (福岡大学) 兄井 彰 (福岡教育大学)  
田原 亮二 (西南学院大学) 山崎 先也 (西南学院大学)  
元嶋 菜美香 (九州産業大学) 中島 憲子 (中村学園大学)
- ・ 顧問 白木 静枝 佐久本 稔 徳永 幹雄 松永 淳一  
進藤 宗洋 井上 勝子 山本 勝昭 金崎 良三  
橋本 公雄 根上 優

## 10. 大会実施上の留意事項

### (1) 大会実施方式について

本大会は COVID-19 の感染対策をした上で、対面方式での実施を予定しておりますが、感染状況に応じて、実施方式が変更になる場合がございますのでご了承下さい。最終決定は **8月18日(金)**までに大会 Web ページでお知らせいたします。

### (2) COVID-19 の感染対策について

館内入り口で体温測定の上、平熱 (37.5 度以下) をご確認して入館し、備え付けのアルコール消毒液で消毒をお願いいたします。各会場では、間隔をあけて座るようお願いいたします。昼食を摂る際には、大声やできるだけ向かい合っでの会話は避けるようお願いいたします。

## 大会参加申し込み

(1) 申し込み締め切り日

2023年7月7日(金) → 7月20日(木)

(2) 大会参加申し込み方法

大会参加・発表申込は第72回大会 Web よりご登録ください。

(3) 大会参加費

大会参加費の納入は、下記口座にお振り込みください。なお、送金に関する手数料は、各自ご負担ください。なお、開催方式の変更にもとない大会参加費は変更になることがありますのでご了承ください。

事前申し込み(7月20日まで)とそれ以後での参加費は、料金が異なっていますので、5ページの会費一覧をご参照ください。入金確認のため、大会参加費の種別について第72回大会 Web よりご登録ください。

### 振り込みに関する重要なお知らせ

大会参加費の変更に対応するため、納入期間を以下の期間に限定いたします。

納入期間：8月28日(月)～9月1日(金)

振り込みにつきましては、一人ひとり別々に振り込んでください。複数人数分をまとめて振り込むことは絶対にしないでください。事務が大変煩雑になります。

### 【大会実行委員会専用銀行口座】※大会参加費のみ

銀行：大分銀行しきど支店(店番号069)

種類：普通 口座番号：7861024

名義：九州体育スポーツ学会第72回大会実行委員会 会計 岡内優明

振り込み例) 名義は氏名(所属)の順で御入力ください。

ブンゴタロウ(ホルトダイガク)

校費で入金される方は特にご注意ください。

## 一般研究発表申し込み手続きおよび申し合わせ事項

保健体育・スポーツに関する研究であって、未発表の研究で完結しているものとします。口頭発表およびポスター発表において筆頭演者としての登壇は、個人研究、共同研究を問わず1人1回に限ります。

(1) 研究発表申し込み資格

演者、共同研究者(当日参加しない者も含む)とも下記①もしくは②の会員で第72回大会参加費を収めた者とする。

① 2023年度九州体育・スポーツ学会年会費を納入済または一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会会費から自動引落としにより本学会年会費を納入する会員

② 上記以外で会費を納入される会員

自動引落としの手続きをしておらず本年度会費が未納な方は年会費 5,000 円（学生年会費 2,500 円）を 7 月 21 日までに学会事務局口座に納付してください。大会実行委員会専用銀行口座に振り込まないように気を付けてください。

【学会事務局口座】※年会費のみ

郵便振替番号：17310-21783811      加入者名：九州体育・スポーツ学会

【他の金融機関からの振り込みの場合】

ゆうちょ銀行    口座名：九州体育・スポーツ学会事務局    店番：738    店名：738

預金種目：普通預金    口座番号：2178381

振込み例）名義は氏名（所属）の順で御入力ください。

ブンゴタロウ（ホルトダイガク）

(2) 申し込み締め切り

2023 年 7 月 7 日（金） → 7 月 20 日（木）

(3) 発表申し込み方法

**大会号原稿**：大会号原稿作成要領（第 72 回大会 Web に掲載）に従い作成し、大会実行委員会にデータを、メール添付で送信してください。

第 72 回大会専用 E-mail： 72nd.kspes@gmail.com

**機関誌抄録原稿**：機関誌抄録作成要領に従い作成した PDF ファイルを、大会前日の 9 月 8 日までに学会事務局（担当：元嶋 菜美香）宛に添付送信してください。様式は第 72 回大会 Web よりダウンロードしてください。

学会事務局 E-mail： kyutai.office@gmail.com

- ① 若手優秀発表賞：35 歳未満（1988 年 4 月 2 日以降生まれ）の会員で若手優秀発表賞への申請を希望される方は、機関誌抄録作成要領に従い作成した抄録原稿ファイルを、発表申し込み時（7 月 7 日まで）に上記の学会事務局宛に添付して提出してください。
- ② ポスター発表賞：本学会会員（年齢制限なし）でポスター発表賞への申請を希望される方は、9 月 4 日（月）までにポスターの PDF ファイルを学会事務局宛に添付して提出してください。

(4) 発表方法

① 口頭発表（オーラルセッション）

1 演題につき発表 12 分、質疑応答 5 分の計 17 分です（発表申し込み数によって変更する可能性があります）。USB を使用される場合は、各会場に設置の Windows PC をご利用ください。各自の PC を使用される場合、HDMI に対応できない場合は、アダプターをご持参ください。

② ポスター発表（ポスターセッション）

1 演題につき 90cm（横）×180cm（縦）のポスターパネルを用意します。指定された時間帯に各自のポスターの前に立ち、参加者と討論していただきます。

(5) 発表取り消し・変更

2023年7月7日（金）までに大会実行委員会（大会専用 E-mail 宛：72nd.kspes@gmail.com）にご連絡ください。

**会費一覧および大会までのスケジュール**

(1) 会費一覧

事 項		金 額	
事前申し込み (7月20日まで)	参加費	一般会員	3,500 円
		学生会員	1,500 円
当日 (7月21日以降)	参加費	一般会員	4,000 円
		学生会員	1,500 円
		会員外	1,000 円
特別共同発表者参加費		3,500 円	

- ※ 本学会員以外の外国人あるいは他の分野の研究者（企業等含む）を特別共同発表者として加えることができます（筆頭発表者にはなれません）。特別共同発表者を登録する発表者は所定の様式を6月9日（金）までに大会実行委員会（72nd.kspes@gmail.com（担当：洲））に送付してください。後日、登録の可否について、実行委員会から連絡いたします。
- ※ 振り込みにつきましては、一人ひとり別々にお振り込みください。複数人数分をまとめて振り込まないようご注意ください。
- ※ 年度会費納入および入会手続きは、別途「九州体育・スポーツ学会事務局」にお願いします。

(2) 大会までのスケジュール

事 項	締め切り等
大会参加事前申し込み	2023年7月7日（金）→ 7月20日（木）
研究発表申込（大会号原稿の入稿）	2023年7月7日（金）→ 7月20日（木）
大会参加費納入（事前申し込み）	2023年8月28日（月）～9月1日（金）
発表取り消し・演者変更	2023年7月7日（金）
機関誌抄録原稿（ファイル）	2023年9月8日（金）

**学会大会派遣依頼書**

学会大会派遣依頼書の必要な方は、第72回大会 Web ページからダウンロードしてご利用ください。

## 交通について

○JR 利用（大分駅下車、会場まで徒歩 2 分）

博多駅から約 2 時間、小倉駅から約 1 時間 20 分、宮崎駅から約 3 時間

○高速バス利用（要町下車、会場まで徒歩 8 分）

福岡天神から約 2 時間、熊本から約 4 時間、長崎から約 4 時間

○自家用車利用（大分 IC から一般道にて会場まで約 10 分）

ホルトホール専用駐車場（約 170 台）または周辺駐車場をご利用ください。

<専用駐車場>最初の 30 分無料、以降 30 分毎に 100 円

○航空機利用（大分空港からバスで大分駅前下車、会場まで徒歩 5 分）

大分空港からエアライナーで約 1 時間



## その他

### (1) 昼食について：

ホルトホール内のレストラン「ホルトガーデン（日曜定休日）」や駅周辺の飲食店をご利用ください。駅構内にはコンビニ、弁当屋、パン屋などがあります。

### (2) 託児所について：

完全予約制とし、7月7日（金）までにお申し込みください。

予約については、大会実行委員会（下記の連絡先まで）に、先ずはご連絡ください。

\*人数やお子様の状況によっては、ご希望に添えないこともありますのでご了承ください。

連絡先 第72回大会専用 E-mail : 72nd.kspes@gmail.com

### (3) 受付及びクローク

前日受付（14:00～17:00）を行います。2階の「大学連携交流プラザ」を予定しています。

1日目の受付は3階「大会議室前」、2日目の受付は2階「201会議室（ポスター会場）」を予定しています。手荷物も受付場所でお預かりいたします。日をまたいでのお預かりはできません。

### (4) 公衆無線 LAN (wifi) について

館内にはインターネット接続サービスがあります。連続利用時間 60 分を経過しますと自動的に切断されます。再度認証を行うことで利用できます。

SSID：“Onsen\_Oita\_Wi-Fi\_City\_Central”

接続方法：<https://www.horutohall-oita.jp/pdf/wi-fi.pdf>

大会議室利用時（1日目午後）のみ、別の wifi サービスを当日お知らせいたします。

### (5) 全体情報交換会

学会員相互の交流を深めるための情報交換会を開催いたします。

日時：9月9日（土）19:00～21:00

会場：カフェレストラン Horuto Garden（学会会場3階）

会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円（現地でお支払いください）

## プログラム

### 講演、シンポジウム、各セッション等の概要

#### 【特別講演】9月9日（土）14:10～15:10

テーマ	「ONE RUGBY ONE OITA」
講演者	御沓 稔弘（大分県ラグビーフットボール協会副会長） 安藤 和宏（大分県ラグビーフットボール協会理事長）
司会	調整中
概要	2019年にワールドカップラグビーの開催地であった大分県では開催に向けてどのような取り組みを行っていったか。大会前だけでなく大会後も、別府市、大分市を中心にグラウンドなどの環境を整備し、多くのチームの合宿誘致に成功している。そのような事例を紹介してもらい、ワールドカップラグビーが県ラグビー界や地域スポーツへの振興にどのように影響を及ぼしたかについて、大分県ラグビーフットボール協会の副会長、理事長のお二人にリレー形式でお話しいただく。 詳細については検討中

#### 【全体シンポジウム】9月9日（土）15:20～17:20

テーマ	体力・運動能力および運動・スポーツ実施の現状と課題（仮）
演者	中山 正剛（スポーツ庁 健康スポーツ課）
演者	廣田 哲也（大分県教育庁 体育保健課）
演者	松元 義人（ヘルス・フィットネス・フォーラム）
司会	齊藤 篤司（九州大学） 熊谷 賢哉（九州産業大学）
概要	国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得ることを目的に「体力・運動能力調査」が導入されてから約60年が経つ。また、体力・運動能力は、運動・スポーツ実施と密に関係することから、スポーツ庁では、国民の運動・スポーツ実施の現状の把握に努めている。 本シンポジウムでは、スポーツ庁健康スポーツ課の専門職、大分県教育庁の体育保健課の課員、更には地域住民を対象とした運動指導従事者にご登壇いただき、全国および九州（特に大分）における体力・運動能力および体力・スポーツ実施の現状を把握した上で、その課題について検討したい。

【専門分科会シンポジウム】

[第1専門分科会] 9月10日(日) 10:40~12:40

テーマ	「学業とスポーツの両立（デュアルキャリア実践）の先にあるものとは何か？」
演者	水内 寛（日本赤十字病院 呼吸器外科副部長）
演者	山路 謙成（株式会社テレビ大分 ディレクター）
演者	谷口 勇一（大分大学）
指定討論者	八尋 風太（日本経済大学）
司会	萩原 悟一（九州産業大学）
企画	森 司朗（鹿屋体育大学）、下園 博信（福岡大学）
概要	<p>本シンポジウムでは、スポーツと学業を両立させる「デュアルキャリア」の概念に触れ、両立に成功した場合に期待できるメリットや機会について討論する。</p> <p>まず、スポーツと学業の両立を実践した演者の例を基に、スポーツと学業の両立を目指す人が何を実践してきたかを説明する。また、時間を効果的に管理し、ストレスを軽減し、現実的な目標を設定するための戦略について、演者の事例を基に参加者とともに議論する。</p> <p>さらに、デュアルキャリアを追求することで、適応力、回復力、タイムマネジメント能力といった長期的なメリットが得られることについても議論したい。デュアルキャリアの実践が精神的・肉体的なウェルビーイングにもたらすポジティブな効果やスポーツのキャリアを終えた後に活かされる経験とは何か演者および参加者とともに考えたい。</p> <p>本シンポジウムでは、スポーツと学業を両立させることの価値を参加者自身が考え、デュアルキャリア実践の課題を乗り越えるための実践的なヒントを提供することを目的とする。</p>

[第2専門分科会] 9月10日(日) 10:40~12:40

テーマ	健康・スポーツの現場における計測技術 -新しい体力評価の可能性-
演者	萩尾 耕太郎（中村学園大学短期大学部）
演者	澤田 泰輔（株式会社スポーツセンシング）
司会	田原 亮二（西南学院大学）
企画	田原 亮二（西南学院大学）、熊原 秀晃（中村学園大学）
概要	<p>近年、テクノロジーの進歩により、計測方法が確立されたことで、運動・スポーツに関する様々な現象が精密かつ短時間で数値化できるようになり、情報の共有も容易にできるようになった。それによって、計測したデータを健康増進やスポーツにおけるパフォーマンスの改善に役立てるような取り組みが多くなされている。</p> <p>本シンポジウムでは、これまで計測方法の制約などで測定されてこなかった体力や運動能力に関する要素の測定方法や測定によって得られた知見について、特に健康問題に焦点を当てて話題提供をしていただく。また、既存の体力測定の課題を指摘することで、より精確に個々人の問題点を判定し、運動指導現場におけるアセスメントにも役立つ、新しい体力評価法の可能性についてフロアを交えてディスカッションしたい。</p>

[第3専門分科会] 9月10日(日) 10:40~12:40

テーマ	「共生の視点」から生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現・継続を考える
演者①	青柳 俊 (大分大学附属特別支援学校)
演者②	岩崎 敬 (大分県日田市立高瀬小学校)
演者③	内田 幹一 (佐賀県佐賀市立大和中学校)
司会	堤 公一 (佐賀大学)
企画	堤公一 (佐賀大学), 宮平喬 (筑紫女学園大学), 西田明史 (中村学園大学)
概要	2022年6月に公表された内閣府総合科学技術・イノベーション会議「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」では、第6期科学技術・イノベーション基本計画で再定義されたSociety 5.0の中核を「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ (well-being)」の価値であると示している。現行の学習指導要領や令和の日本型学校教育で求めている「多様性」を保障する学習の推進は、今後さらに加速化されていくであろう。本シンポジウムでは、障害者スポーツにおけるルールや用具の工夫、障害のある幼児児童生徒の個々のニーズに応じた合理的配慮ならびに特別支援学級との交流及び協同学習の実践等に関する実践報告や話題提供から、共生社会における「多様性」を保障する体育のあり方についての理解を深めていきたい。本シンポジウムでは、3名の演者から「特別支援学校における合理的配慮の説明および体育授業実践の事例報告」「小学校体育専科教員として共生の視点に配慮してきた実践事例」「ルールの改善からチームへの貢献を目指したバスケットボールの実践」について報告いただく。

[第4専門分科会] 9月10日(日) 10:40~12:40

テーマ	大学における健康支援活動は社会でどのように役立つか? (仮)
演者	高瀬 幸一 (名桜大学)
演者	松尾 洋 (榊くまもと健康支援研究所)
演者	調整中
司会	高瀬 幸一 (名桜大学)
企画	松尾 洋 (榊くまもと健康支援研究所) 高瀬 幸一 (名桜大学)
概要	<p>コロナ禍を経て、健康づくり、介護予防の取り組みの重要性が増している。地域住民を対象とした健康支援の取り組みの拡充が期待される一方で、人材不足が課題の一つとなっている。今回は、大学での健康支援活動が社会でどのように役立つかをテーマとし、産官学それぞれの視点から、ヘルスプロモーションに資する人材育成について考えてみたい。</p> <p>本シンポジウムでは、大学における健康支援活動 (名桜大学ヘルスサポート)、九州各地で健康づくりを支援するくまけん、市民の健康を守る行政の立場から、それぞれの取り組みの紹介と課題について報告いただき、afterコロナの地域の健康づくりについて議論したい。</p>

[第5専門分科会] 9月10日(日) 10:40~12:40

テーマ	『スポーツ選手の競技持続性』を測る指標
演者	森 誠護 (九州共立大学)
演者	増村 雅尚 (九州産業大学)
司会	府内 勇希 (熊本学園大学) 池上 寿伸 (九州体育・スポーツ学会理事)
概要	<p>スポーツ選手が競技力を持続できる環境要因については諸々の要素が関係していると思います。もちろん選手・アスリート自身ができる競技力の維持向上には体力・気力の充実や技術力のアップ等がキーとなってくることが考えられます。例えば技術については、フォームが安定しないとエネルギーロスとなり、けがや障害に繋がり、選手寿命を縮めることにもなりかねません。また、特に感染拡大ウイルス等の影響もありメンバーが集まらず、制限された練習時間の中で迎える大会決定戦や記録会の場で実力発揮できるかが重要になってきたかと思えます。折しも、選手の自己管理能力や自律性・主体性を讃えるコーチングの話題が多くなりました。</p> <p>指導者・コーチや科学技術によるサポートが必要ですが、そのアドバイスや知見を選手自身が理解し認識できるようにすること、競技力の安定向上を測る指標が明らかになることや、トレーニングとセルフチェックの実施が習慣となるペースを作っていくこと等が重要になると考えます。</p> <p>本シンポジウムでは、選手が日々精錬し改善していくための拠り所となる視点を題材に、現場関係者の質疑を交えた論議が展開できることを期待します。</p>

【研究推進委員会セッション】9月10日（日）9:30～10:30

タイトル	大学生におけるAcceptable walking timeと移動歩行との関連
演者	神谷 義人（名桜大学）
概要	<p>若者世代における身体活動不足が課題となっている。これまで、生活活動を増やせる機会として通勤・通学時の移動歩行（transportation walking）が着目されてきた。移動歩行に関連する心理的指標として、acceptable walking distanceあるいはacceptable walking distance（AWD/AWT）を検討した研究が散見される。AWD/AWTは、どのくらいの距離または時間であれば、目的地まで歩いて行こうと思うかという許容できる歩行距離または時間のことであり、移動歩行を予測する歩行「意図」を把握することができる。本研究ではAWTに着目し、日本人の大学生においても、AWTが移動歩行を予測するか、すなわちAWTが移動歩行時間と線型傾向を示すか検証することを目的とした。2022年11月、A大学の学生201名に対し、無記名式の調査を行い、145名から回答を得た（72.1%）。調査項目は、AWT、世界標準化身体活動質問票（GPAQ）、基本属性であった。解析は、AWTと歩行時間/週の線型傾向を検討するために、直交多項式対比を付加した線形回帰分析を用いた。単回帰分析の結果、AWTの増加と共に移動歩行時間が増加する有意な線型傾向を示した（P for linear trend = 0.004）が、学年、性別を調整すると線形傾向の有意性は消失した（P for linear trend = 0.108）。その際の推定歩行時間/週は、AWT 2分以内が13.3分、5分以内が21.2分、10分以内が54.3分、15分以内が113.0分、20分以内が97.8分、21分以上が103.3分であった。AWT 10分以内までの移動歩行時間は週当たり55分未満、11分以上では100分前後とAWT 10分を境に歩行時間が異なった。大学生において、AWTと移動歩行に線型の関連は認められなかった。しかしながら、10分の距離までの歩行を許容する大学生と、11分以上の距離でも歩こうと思える大学生では週当たりの歩行時間が異なる可能性が示唆された。徒歩圏内でも歩こうと思えない大学生は、身体活動量が少ない可能性が示唆された。</p>
タイトル	Well-beingの実現を目指した学校体育における身体的リテラシーの位置づけ
演者	高橋 浩二（長崎大学）
概要	<p>本研究の目的は、子供自身が「学びの地図」や「学びの羅針盤」を理解して自ら操る能力に「身体的リテラシー」を位置づけ、それを学校体育において育成する方策を明らかにすることである。UNESCO（2015）では、身体的リテラシーを「体育の基礎であり、一つのプログラムではなく、構造化された体育が提供された成果であり、学習者がさまざまな年齢に遭遇し、適切な機会を与えれば、より容易に達成される」と述べているように、学校体育において身体的リテラシーの育成を位置づけることは喫緊の課題である。特に、健康リテラシーを包含した「身体的リテラシーの育成」を通じた子供のwell-beingの育成につながる教育が必要である。さらに、その教育DXの観点から展開し、学習の「見える化」や「履歴化」を達成することも重要である。授業者は身体や運動、健康について「体育や保健の見方・考え方」に関連づけて指導する必要がある、その理解を学習者の志向性へ広げていく必要がある。体育では、運動や健康についての実践から「身体的リテラシー」の学習が成立するのである。本研究では、それを小学校及び中学校の9年間を見通して</p>

	<p>体系化を図ろうとした。本研究の結果、次の成果及び課題を得ることができた。第一の成果は身体的リテラシーの「見える化」や「学習の履歴化」を図ったことである。特に、Chromebook及びGoogle Classroomを用いた「学習の履歴化」により、身体に関わるリテラシーを蓄積することができた。第二の成果は「学習の身体化」である。小学校体育科から高等学校保健体育科までは、教育者としての授業者が学習を系統立て、学習者を目標の達成まで導くことによって「学習の身体化」を目指すこと、授業者は役割を変化させながら教育活動を実施すること、授業方法は一斉指導、アクティブ・ラーニング、複数のPBL等、学習方法が多様に設定可能であることである。課題は、9年間または12年間を見通した体育科・保健体育科教育の体系化である。</p>
企画・司会	兄井 彰（福岡教育大学）

【自主企画セッション1】9月10日（日）9:30～10:30

テーマ	運動・スポーツの多様な楽しみ方を可能とする体育授業の在り方を考える
話題提供者	西田 明史（中村学園大学）
司 会	宮平 喬（筑紫女学園大学）
企 画	宮平喬（筑紫女学園大学）・西田明史（中村学園大学）・堤公一（佐賀大学）
概 要	<p>教育現場では学習者の多様性の受容が求められている中、各授業担当者は、体育授業を工夫し、学習者全員が満足感を持って、授業に取り込める方法を探っている現状がある。実際、大学の体育授業の現場では、様々な学習者に遭遇する。例えば、技能の優劣にかかわらず意欲のある者がいる一方、技能は優れているものの意欲が湧かない者、苦手意識があるために消極的態度をとる者も一定数存在する。他にも、身体・精神・知的障害を有するが故に運動・スポーツ実践に不自由を強いられる者や性的少数者（LGBTQ+）の存在も体育授業を運営する上で看過できない点である。多様性の受容を踏まえた授業運営が求められる中、さらなる詳細な知見も必要となろう。このラウンドテーブル・ディスカッションでは、多様な学習者に対峙した際の授業時の様々な事案の共有をはかりたい。</p> <p>（第3専門分科会の自主企画として実施）</p>

【自主企画セッション2】9月10日（日）9:30～10:30

テーマ	令和時代の武道授業について考える
話題提供者	松永 武人（南阿蘇村立南阿蘇中学校 教諭）
話題提供者	山口 耕平（福岡市立花畑中学校 教諭）
司 会	本多 壮太郎（福岡教育大学）
指定討論者	藤田 弘美（行橋市立泉中学校 校長）
概 要	<p>他の領域と同じく武道が中学校第1・2学年で必修となって15年が経過している。その間、コンピテンシーベースへの学習指導要領の改訂、1人1台のICT端末の活用、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、主体的・対話的で深い学びの実現等、教育改革が猛スピードで進んでいる。本セッションでは、演者の先生方に中学校現場でのこれまでの武道授業実践の工夫や成果、困り感や課題等についてご紹介いただく。加えて、日本武道学会九州支部とのコラボレーションにより、専門家の知見や専門家ならではのジレンマ等も踏まえた議論を行っていきながら、令和時代にふさわしい武道の授業づくりについて検討していきたい。</p> <p>本セッションは、日本武道学会九州支部とのコラボレーションで実施する計画である。九州体育・スポーツ学会の会員だけでなく、日本武道学会九州支部の会員にも参加していただくことで、今後の武道の授業づくりや実践上の工夫や課題について意義ある議論が展開されるものと考えている。</p>

【自主企画セッション3】9月10日（日）12:50～13:50

テーマ	子どもの遊びと健康・体力・運動発達
演者	森 司朗（鹿屋体育大学）
演者	宮田 洋之（中京大学）
演者・司会	安部 孝（順天堂大学）
企画	安部 孝（順天堂大学）
概要	子どもたちの遊び（特に運動遊び）が健康や体力、運動発達に及ぼす影響（効果）について、3名の演者がそれぞれのテーマでの最新情報をエビデンスに基づいて提供します。それらの知見を基にディスカッションを行います。

テーマ	部活動地域移行時代の大学スポーツ～カギを握るハイブリッド型組織
演者	花内 誠（九州産業大学）
企画代表者	磯貝 浩久（九州地区大学体育連合会長） 田原 亮二（九州体育・スポーツ学会大会企画委員長）
指定討論者	中山 正剛（スポーツ庁）
概要	<p>中学校の部活動の地域移行がはじまった。この流れは、これまで学校スポーツを幹としてきた日本のスポーツ界にいずれ大きな変化を及ぼすだろう。大学スポーツも当然、その流れに巻き込まれる。中学、そして高校の部活動が地域移行した時に大学スポーツだけが学校部活動として今のままで居られるはずがない。</p> <p>これからの部活動地域移行時代に大学スポーツはどうあるべきなのだろう。</p> <p>以下の順で考察を試みたい。</p> <p>1 部活動地域移行の流れを考える 部活動の地域移行を単なる教員の労働状況改善と捉えている人は最早居ないと思うが、流れを読まないとその影響を読めない。まずは、部活動の地域移行の流れを考えたい。</p> <p>2 日本の部活動の形成を史的考察する 「ドイツの様に部活動を地域に」という意見を聞くときもあるが、スポーツ環境の形成は国によって異なる。部活動形成を史的考察することで、彼我のスポーツ環境の違いとその形成理由を明らかにすることで、「ドイツの様に」するためには、どこに違いがあるのか。その課題を明確にすることを考えたい</p> <p>3 課題を検討する 違いは、スポーツに対する概念とその違いから派生する行政の担当の違いに集約されるだろう。競技スポーツとレクリエーション、レクリエーションムーブメントが中途半端に終わった日本では、余暇（レクリエーション）に関する概念もまた曖昧である。ワークライフバランスや、セカンドプレイス・サードプレイスの在り方などの課題を知り、検討することで、施策の検討につなげていく。</p> <p>4 大学スポーツがやるべきこと～ハイブリッド型組織による対応 大学の場合、教育とその実践の場を持つ領域、例えば医学であれば、医学部と大学病院がある。プロチームの場合は、チーム（株式会社）とユース（一般社団）などを使い分けるハイブリッド型組織を谷塚哲東洋大学准教授も提唱している。</p> <p>そもそも、アメリカの大学スポーツの Athletic Dept. は、大学とは別会計組織であり、大学病院と類似した形態である。日本においても、草創期に作られた大学体育会である東京大学運動会は一般財団法人である。部活動地域移行時代に大学スポーツをハイブリッド型組織で対応するためにはどうしたらよいか。共に考えたい。</p>

【スチューデント・セッション】9月10日（日）12:50～13:50

テーマ	大学院生の研究のモチベーションとアイデアはどこから来るのか
演者	未定
司会	堤 愛美子（九州大学大学院）
企画	堤 愛美子、牛恬歌（九州大学大学院）、草野 雅貴（福岡大学大学院）
概要	<p>大学院生は学部生とは異なり、授業がほとんどなく、主に研究活動を行っており、自主性を重んじられる。自分の生活スケジュールと研究のモチベーションをどのように両立しているのか各々の生活の工夫を聞くことによって、大学院生はもちろん、大学院を目指す学部生にとっても大変参考になるものであろう。</p> <p>また、研究のアイデアやモチベーションを日々の生活の中でどのように得ているのか独自の視点や工夫を紹介し合うことで、自分の生活の振り返りをする中で、新たな気づきを得られるのではないかと考える。</p>